



心肺蘇生時の呼吸管理

最新のトピックスと今後の課題

演者 大阪大学医学部附属病院
高度救命救急センター
島崎 淳也 先生

昨今、心肺蘇生において絶え間ない胸骨圧迫と早期除細動が重要視されるあまり、呼吸管理に目を向けられることが少なくなってきている。バイスタンダーには必ずしも人工呼吸を求めなくなり、胸骨圧迫のみのトレーニングも普及している。だからといって心肺蘇生において呼吸管理が重要でないわけではない。PCPSを導入しない限り酸素化の維持には換気が不可欠であり、蘇生中にも適切な呼吸管理が求められる。

しかし蘇生中の最適な換気方法は確立していない。ガイドラインでは二次救命処置における呼吸管理として10回/分の換気を推奨しているが、適切な換気量や換気モードに関して言及されていない。連続した胸骨圧迫下における非同期呼吸管理では気道内圧の上昇を来すが、それが身体に及ぼす影響も不明である。

我々は心肺蘇生中に経肺圧の測定を行うことで、胸骨圧迫が換気に与える影響を評価している。また心肺蘇生に特化した換気モードを搭載した人工呼吸器も登場し、その使用経験も含めて報告する。このセミナーではプレホスピタルから蘇生後のICU管理に至るまで、心肺蘇生における呼吸管理の最新トピックスをとりあげ、今後の課題について自験データを交えて解説したい。